

● ムゼオ モト・グッツィ訪問記 — 行くぜ！イタリア編 —

モト・グッツィ本社工場内の博物館(ムゼオ)が閉鎖され、今年の1月一杯をかけてリニューアルを行ったとの情報を、公式サイトで見た私、「グッツィ・マン」は、その様子確かめるべく現地に乗り込んでまいりました。その模様を「 TENNIE の皆様だけに(笑) 」お伝えしますので、これを参考に皆様が後に続く事を期待しております。



▼リニューアルオープンしたとの明確な告知も無いし、問い合わせても返事こないし、寒いしと、しばし悩んだ末、「エエイ、ままよ！」と、不況風と花粉が吹きすさぶ日本から脱出し、目指すはマンデロ・デル・ラリオ(左写真)

さて、今回はレンタカーを借りました。初めての左ハンドル、相棒は新型チンク 1.2Lガソリンエンジン(約 70 馬力で車重1t、当然テニより遅いのよ)そして楽しみだった国内未導入のマニュアル仕様です。日本で自動クラッチ仕様を試乗済みで、その比較が今回の旅の主目的(ん？マンデロは?)でした。ミラノから各地に寄りつつ、アドリア海まで往復し、約 1 週間で 2,000Km以上走破し、たつぷりと堪能しました。気に入った！よし！これ買おう！（あれ、グッツィは？）



★実は、ミラノのマルペンサ空港の入国口から、空港から車で 20 分のホテルに到着まで、1 時間半もかかってしまいました(道も間違えたし)。

レンタカー営業所が遠く、分かりづらいところにあり、さらにキーを受け取り、駐車場の所定の車に到着するまでが、無駄に遠くて上の写真まで 30 分を要しました。おまけに駐車上の出口が分かりづらく(泣)、出るのに 10 分も。他の人々も迷っており、皆で同じ所をぐるぐる回っておりました。

* ちなみに、マルペンサ空港の周囲は、5 年位前から未だに工事を続けており、未だに完成しておりません。さすが、イタリア。



▼ 全く土地勘の無いイタリア、何故(ほぼ)スムーズに行ったか？

その秘訣は、ナビのトムトム君(ヨーロッパでは普及機種)、タッチパネル式の小さな奴で、フロントガラスに吸盤固定式が不安でしたが、旅行中一回も落ちる事は無く、意外に高い耐久性でした。



※まあ、おかげで楽チンなドライブでしたが、日本製に比べ世代は遅れている感じ。

まず、初日に20分で行くホテルに40分もかけさせ(指示遅いよ、何度出口を間違えたか…)、更に、ミラノからボローニャまで一直線の高速があるのに、わざわざベネツィア方向への迂回を

指示する「トムトム」君、マシンボイスをメアリー・モード(英語;女性)にしても変わりません。

※ちなみに、ミラノ〜ヴェネチア線はイタリアで最も渋滞がひどい路線です、平日でも土曜朝の東名並みです。しかし、2日目には「トムトム」君の癖が掴め、勘と合わせて何とか使いこなせる様になりました。

▼ ともかく3時間でボローニャに(内30分は、出発前にナビとの格闘で浪費)、相棒のチンク1.2Lが、良く走る(160Km巡航も楽々)ので、快適なドライブでした。楽しー！



▼ 高速の改札所近く、黄色い看板に注意！「TELE PASS」は、イタリア版ETC(普及はイタリアの方が早かったが)です。レンタカーには当然ないので、チケット発券機へ。

※右の方に行くと機械式発券機(自動またはプッシュボタン式)あり。



▼ 料金所では、カード払い専用出口(青い「CARTE」と書かれた看板のレーン)の機械に券を入れて、同じスロットにカードを挿入。機械の反応は遅いです。

領収書は「RICEVUTA」ボタンを押し続ける事。

現金の場合は、専用の係員ゲート(白いイラスト付き看板あり)に入ります。そこではカード払いも出来ました。



- ▼ さて、何故ボローニャに？という疑問をお持ちの方、そうです、「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」です。まずは、強敵ドカッチーの本拠地に強行偵察を敢行し、イタリア上陸の氣勢を上げます。



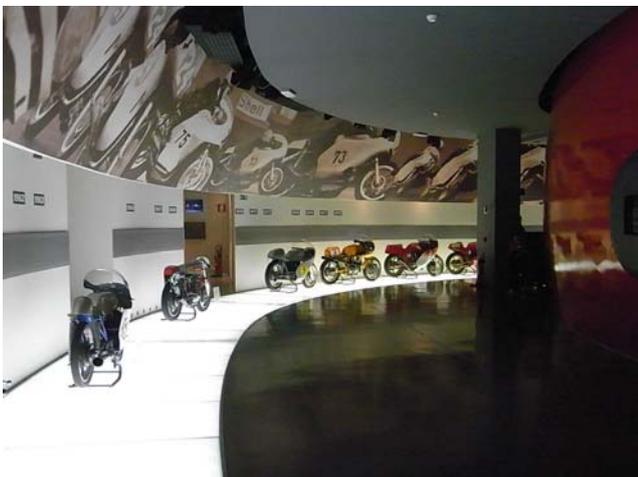
※ボローニャ郊外のそれは、素っ気無い建物でした。土曜日もやっていたのありがたい(この点はグッツィの負け)。



- ▼どこから入るのかわからないのですが、正面に守衛所らしき建物、ここは、堂々と正面突破です。
- 以前、NHK教育テレビのイタリア語講座で、加藤ローサと勉強した成果を、今こそ試す絶好の機会到来！
- ノックと共に守衛所のドアを開け、
- 「ミ・スクーズィ、ヴォレイ アンダーレ ムゼオ ペルファボーレ？」(すいません、博物館に行きたいんですけど？)
- またか、と言う顔で、なんやら英語とイタリア語のちゃんぽんで守衛のおっさんが教えてくれます(通じた様です)。
- 「そこを左でまっすぐ行きゃーあるよ。」と言っていたよう、
- 「グラーツィエ」(ありがとう)で、直ぐに入り口から2階へ。



▲おっ、いるいる。日本人はおらずイタ公のみの様ですが、さすが私以外は皆熱心そうでした(笑)。



▲円周状ホールは、写真では実際より広く見えます。効果を狙った設計なのかな？(左)。

▲その外周に、いくつか小部屋が配置され、テーマ別の展示(右)が、なかなかレイアウトは凝ってます。

▼レーサーって、なんかどれも同じで、違いがわかんねー(左下)と、たくさんのトロフィー(右下)が誇らしげです。



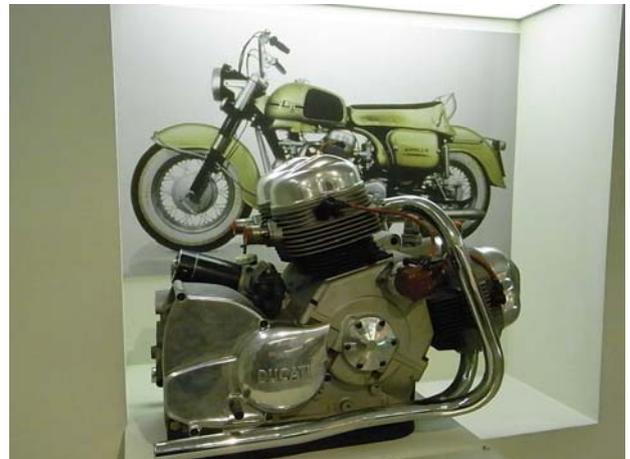
★グッツィに比べると、館内は広くきれいだけど、何となく趣がないのは、やはり歴史の浅さのせいかな。
貴重なクラシックバイクって、たかが 1950 年代の物じゃね。グッツィでクラシックと言うと、1930 年代以前だからね。
展示もコンペモデル主体だと何か単調だね、と思っていると以下の様な展示が目を引きます。



▼ あれっ！ 20 年位前のパリーダカール優勝車！

(でも、これ当時の親会社のカジバ製だよな？
まあエンジンはドカ製だからいいけど。)

▼ ウォオオオオッ！！！！アメリカ市場を狙ったアメリカンのアポロ(エンジンのみ)だっ、レア物だぜ、欲しい！



▼ デスモ生みの親、ファビオ・タリオニの製図台一式



▼ 初期の小排気量車(モペット?)のフレームかな？
最新の自転車のフレームみたいで、凝った作りですね。



★さて、次は市内観光でも行きますか…。

▼ さて、偵察も終了し、ボローニャ市の南に隣接する山に登ります。やや霞みがちでしたがボローニャ地方
一体が見渡せたのですが、現地の連中が突然退散します。駐車禁止の取締りの様で、私も逃げます。



★元々、修道院のある場所で、多くの人々が歩いて登っていました。時間かけて歩いて登るのも面倒で、今回はパスしました。次また来ればいいや。って、次回はあるのか？おい！

★やはり、ボローニャ市内を散策する為には、まずは駐車場を。中心地から歩いて 30 分程度の所にやっと見つけます。周りを見回すと、券売機が 200m 位毎にあります。

駐車料金が、1時間1.5ユーロ(当時の両替レートで¥190)は安い？



※おつりが出るか不安なので、コインできっちり払いました。

★液晶表示が、ボタンによりフランス語や英語に切り替え可能でした。



▲入金すると発券されるチケットを、ダッシュボードに置きます。

※ 注意；取り締まりは頻繁にやっており、時間超過した車のワイパーに、罰金の請求書を挟んでおりました。レンタカーも料金のカード引き落とし時に、一緒に強制徴収される様です。ご用心！



▼ ようやく、市内の中心部へ向かいます。見所があり過ぎて、写真撮るのに疲れてしまいます(きりが無い)。



▲ 死んだカエルの脚をメスで動かして遊んだ(?) 事で有名なガルヴァーニの記念広場と、その像です。



▼ お目当てのマンダリナダック(バッグ屋さん)のショップ
日本から撤退したので、イタリアに来るしかないですね。



▼ 広場の周囲に市立博物館があるのを偶然に発見、素敵な中庭でゆっくり休憩する事が出来ました。



▲ 中心地付近の、傾いた塔です、わかりますか？古い建造物が多すぎて保存工事が追いつかないらしく、あちこちの町で傾いた教会や尖塔が見受けられます。ピサの斜塔は序の口か！

★ 続きは「来たぜ！マンデロ」編に…、肝心のムゼオ モト・グッツィは、ちゃんとそちらに掲載していますので、ご安心を。